

～ 立春と雨水 ～ 春一番

2月の二十四節気は、上旬の立春（りっしゅん）と下旬の雨水（うすい）です。
春の気配を感じ始め、雪は雨に変わり、氷も溶けていく季節です。

季節が冬から春へと変わるこの時期に、初めて吹く暖かい南寄りの強い風のことを『春一番』と言います。
この『春一番』は地域によって基準が異なりますが、関東では
2月4日ごろの立春（りっしゅん）から3月21日ごろの春分（しゅんぶん）までの間に、
風向が東南東から西南西の南寄りで、毎秒8メートル以上の風速が初めて観測され、
気温は前日より上昇し、日本海に低気圧が発達している気圧配置のときに発表されます。

『春一番』という言葉の感じから、暖かな待ち焦がれた風をイメージしそうですが、実は竜巻などの突風（とつぷう）を伴うこともある強い南風です。
これは低気圧に向かって南から暖かい空気が吹き込んで来るからです。

1978年（昭和53年）2月28日、関東地方では、寒冷前線の通過で大気の状態が不安定となり、神奈川県川崎市から千葉県鎌ヶ谷市にかけて時速100km以上の猛スピードで竜巻が通過しました。
また、21時20分頃、営団地下鉄（現・東京メトロ）東西線の地上区間の南砂町～葛西駅間にある荒川橋梁では、走行中の列車がこの竜巻に巻き込まれ、10両編成の後部3両が脱線、うち2両が横転し、21人が負傷するなど、この一連の竜巻で36人が負傷、家屋損壊は289棟にのぼっています。

『春一番』の気圧配置のときは、強風、特に急な突風に注意が必要です。

（次回は啓蟄と春分）

株式会社エーティーティーソリューションズ
気象予報士 小川浩史

